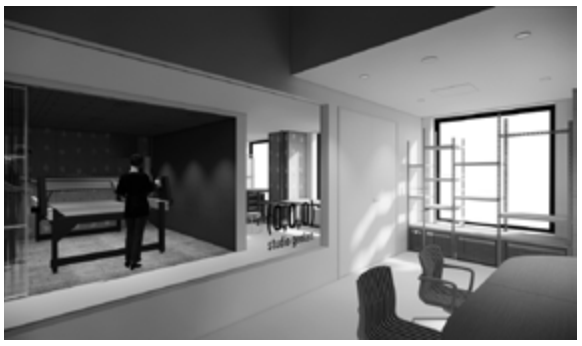
コクヨが新たな試み

デジファブ技術活用
「働く空間」の価値創出目指す

コクヨ株式会社（黒田英邦社長、大阪市）は、同社初の取り組みとなるデジタルファブリケーション技術（デジファブ技術）を活用した、木素材を中心とするオリジナルの内装空間やアート、家具を提案するサービスを開始する。また、今年7月に資本業務提携を行ったVUILD社（神奈川県川崎市）のデジタル木材加工機「ShopBot」を活用して、顧客やパートナーとともに試作・検証を行い、顧客ごとのニーズに応えていくスタジオ「(o.o.o)スタジオゲンテン」を、コクヨ東京品川オフィスTHE CAMPUS内に11月1日に開設した。


「スタジオゲンテン」パースイメージ

コクヨは、デジファブ技術のノウハウや加工・製作のプラットフォームを持つVUILD社をパートナーに、同社が持つオフィス空間提案やものづくり技術を進化させて新たなソリューションの提供や、家具のビジネスモデル構築を目指す。また、これにより、同社と顧客が共に最適なソリューションの実現に向けて試作や検証を繰り返して、従来の作り手と使い手の垣根を無くしていくことで、サービス価値の更なる向上を目指す。

ハイブリッドワークの浸透において、従来のオフィスに求められた業務効率や機能的側面だけでなく、「集まりたくなるオフィス」という、心理的側面に着目。木素材による温かみや安らぎ、カスタマイズによるアイデンティティーやワーカーへの配慮などを実現するためにデジファブ技術を活用していく。

また、デジファブ技術により木材の利用の幅を広げることで、森林保全において間伐及びその間伐材の有効活用を促進。さらには、国産木材を積極的に活用し、林業の活性化につなげるなど、持続可能な利用環境を作っていくことで、SDGsへの貢献に資する。

2020年～2030年のリモートワークの市場成長率は、年率プラス13・5%、2011年～2021年のシェアオフィスの床面積増加率は年率プラス25・5%と、今後も働き方の多様化により定着したハイブリッドワークの成長が予想されている。

「(o.o.o)スタジオゲンテン」は、今後一般に向けてもサービスを展開し、オフィス関連品のみならず椅子やテーブルといった在宅ワーク用の家具製作の支援も予定している。

働き方を支援
ニューノーマルな

コクヨの新サービス

ワークプレイス ダッシュボード

新サービスのトップ画面

在宅勤務やテレワークの導入が急速に拡大する中、オフィスに求められる機能は変容している。同社では、品川ライブオフィスに、フロアごとの機能を明確にして、社員が仕事の内容と目的に合わせて最適な場所を自由に選択できるABW（Activity Based Working）という働き方を導入しており、これにAIカメラや位置情報、アンケート調査などを通じて得たデータを掛け合わせて、最適なオフィスのあり方を探求している。

今回、同社が培ってきた様々な取り組みのノウハウをもとに、働き方データの可視化、コンサルタントによるデータ分析、オフィスの改善提案など顧客企業からの独自要望への対応の3つのメニューをそろえた「ワークプレイスダッシュボード」の提供を開始。「オフィス内の各空間が効率よく利用されているか知りたい」、「オフィスを改善するにあたり根拠となる材料がほしい」といった声に応える。

同社では「ワークプレイスダッシュボード」の提供を通じて、顧客企業の継続的な働き方改革に貢献していくという。

サービス概要と価格は次の通り。

スタンダード＝可視化を中心としたモニタリングサービス。プロ＝モニタリングに加え、さまざまなデータを多角的に分析するサービス。カスタム＝プロとスタンダードの対象を超える場合、もしくはプロの枠組みを超える要望への対応。

スタンダードとプロについては、対象を従業員数500人以下、1拠点3フロアまでとし、アカウントは2名まで提供。

これら内容以外にダッシュボードを導入するための打合せと、ダッシュボード作成費用が必要。

導入手順は、ダッシュボードの内容は指定のURLから確認する。画面の大きさは14型PCモニターサイズとなる（微調整可能）。スマートフォン対応はカスタムサービスとなる。

商品HP＝https://kokuyo.jp/workplace_dashboard/

「ファンが集う場」に
〇…ぺんてる…〇

コーポレートサイト リニューアル

コーポレートサイトの画面

ぺんてる株式会社（高橋智和社長、東京都）は、10月3日にコーポレートサイト（http://www.pentel.co.jp）をリニューアルした。デザインの刷新と内容の拡充により、同社製品の愛用者にとって、いつ訪れても新鮮な発見のある「ファンが集う場」となることを目指している。

また、同社のOur Vision（ぺんてるの「表現するよろこびをはぐくむ」ことの一環として、国内外で表現する人々への取材記事を掲載したウェブマガジンを新設した。同社製品の愛用者への取材、製品の開発ストーリー、SNSのユーザー投稿のまとめなど、幅広いジャンルの連載記事を定期的に更新していく。

リニューアルのポイントは次の通り。

①表現するよろこびを伝える「ウェブマガジン（記事コンテンツ）」を新設。

国内外の表現者へのインタビューなどを通して「表現するよろこび」を伝えるウェブマガジンを新設。同社製品の愛用者やアート活動主催者への取材、社員による開発ストーリー、SNSのユーザー投稿のまとめなど、幅広いジャンルの連載を予定。

②商品を探しやすく、新たな出会いを生む設計。

商品検索機能の向上に加え、主要ブランドのピックアップ掲載、作例から探す機能など、カテゴリーにとらわれない多様な切り口で商品に出会えるきっかけを用意。また、「Fan's Voice」として実際の愛用者の人々の声を掲載し、商品についてより深く知ることができる構成に。

③より見やすく、使いやすいデザイン。

画面サイズに応じて表示を最適化するレスポンシブデザインに対応し、タブレットやスマートフォンなどのさまざまなデバイスでの視認性、操作性を向上。コーポレートカラーである赤を基調に、機能的かつ親しみやすく、表現することの楽しさを感じられる、ぺんてるらしいデザインに仕上げた。

④マスコットキャラクター ぺぺ&ルルも登場

商品情報ページには、同社のマスコットキャラクターであるぺぺ&ルルも登場。

創立70周年記念して
大阪文工連ニュース特別号を発刊

一般社団法人大阪文具工業連盟（西村貞一理事長）は、今年10月に創立70周年を迎え、大きな節目の年の記録として、毎月発行している「大阪文工連ニュース」の11月号を、「創立70周年記念特集号」（A4判、カラー、12頁）として発行した。

西村理事長は創立70周年を迎えて、「先人たちが築いた70年の歴史と伝統を胸に刻みながら、『文化を育てる文房具』の使命を永続的に具現化していくため、常に市場（ユーザー）が求める商品を的確に把握し、すばやく対応できる体制を整えていく。70年の歴史の中でも、2020年からの中国初のコロナウイルス禍の状況は、世界中のほとんどの人が予想もしない環境と変化をもたらした。その環境の中でも、私たちは全員一丸となり、驚きと感動を与えることができる新しいかたちの文房具をこれからも追及し続け、一般ユーザー並びに業界への発信に努めていく」と挨拶。

記念特集号は、前述の西村理事長の巻頭挨拶ではじまり、美馬隆士、梶田安彦、水谷豊3副理事長の挨拶、一般社団法人全日本文具協会・数原英一郎会長、大阪文紙事務器卸協同組合・松本圭司理事長、大阪文具事務用品協同組合・金澤利治理事長の祝辞、1952年～1991年までの70年の歩み、2013年～2022年の直近10年間の活動、3年振りのリアル開催となった文紙MESSE2022報告、各委員会（総務委員会・美馬隆士委員長、財務委員会・林眞一郎委員長、取引・経営委員会・山本利治委員長、情報化委員会・山形博志委員長、親睦委員会・後藤圭造委員長、福祉・広報委員会・西村宏之委員長、青年活動委員会・田中宏和委員長、共同配送委員会・梶田安彦委員長、国際委員会・美馬隆士委員長）による、これからの10年へ文工連活動への抱負、巻末には会員名簿をそれぞれ掲載している。

また同社は、社員の行動データやオフィスの利用状況の可視化、コンサルタントによるデータ分析、オフィスの改善提案まで、顧客企業が必要に応じて選択できるメニューを用意し、ニューノーマルな働き方を支援する新サービス「ワークプレイスダッシュボード」の提供を開始した。

なお、「大阪文工連ニュース」は、創刊号は1967年10月に発行、当初は月刊誌（A5判20～30頁）として、内容は随筆、論文、俳句、和歌、短歌などを掲載。2006年からA4判、翌年から2色刷となった。55年間にわたり発行を継続し、記念号は268号となる。

全文連役員

別項の全文連総会では、次のように役員を選任した。

会長　宮城邦弘（ミヤギ）東京

副会長　成田耕造（成田本店）青森、原島博（ハラジマ）東京、住田宏（ファングス）愛知、金澤利治（金澤英）大阪、石丸忠重（石丸文行堂）長崎

理事　富本荘一（トミヤ商事）北海道、広瀬洋一（アサヒ商会）群馬、（会計）鈴木和弘（ミツワ堂）千葉、（会計）大塚和男（中板堂）東京、（会計）鈴木眞一郎（オカモトヤ）東京、（情報）藤井國男（三松堂）東京、松信裕（有隣堂）神奈川

理事（常任相談役）　森静雄（モリイチ）東京

監事　荒井一廣（勝文堂）東京、奥本祐二（奥本いろは堂）東京

相談役　（情報）池田文雄（池田屋）東京、内田勇二郎（丸正商店）東京、岡本光司（岡本紙文具店）東京、佐藤克夫（文祥堂）東京、渡邊輝也（加登屋）東京、阿久津晄（ねずらむ）神奈川、天野敏明（丸天産業）愛知

クリエイターが出会う場を創出

奈良デザイン協会は、11月9、10日、奈良県コンベンションセンター・コンベンションホールで、クリエイター、企業、バイヤーがリアルに出会う展示会「クリエイターズ・スパイラル奈良2022」を開催する。

フェアでは、「創る仕事を増幅する」をテーマに、コロナ後を見据えて、新しい事業を探す企業、バイヤーと、新しいビジネスを創りだしたいクリエイターがリアルに出会う場を創出する。各クリエイターが各自で設置した25ブースを予定。

ビジネスチャンス発掘フェア
11月16、17日に開催

ものづくり企業の高度な技術と、優れた製品を一堂に公開する総合展示商談会「ビジネスチャンス発掘フェア2022」は、11月16日、17日に中央区本町橋のマイドームおおさかで開催する。

大阪府内のものづくり企業を中心とした182社・団体が出展する総合展示商談会。関西にはものづくりを支える屋台骨である中小企業が数多く集積しており、フェアに合わせて、新製品や新技術の発表を行う出展者もあり、優れた新製品や技術等も公開を予定している。

また新商品関連のプレゼンテーションイベントや特設展示コーナーも予定しており、販路開拓や新製品開発のヒントを得られることが大いに期待できる。

校査調本学基
5月1日

1497万7千人
現在の小中高在学者数

文科省がこのほど公表したことし5月1日実施の学校基本調査によると、小中高等学校在学者数が前年度より減少し過去最少となるなど、次のように報告している。

在学者数は、幼稚園が、92万3千人で、前年度より8万6千人減少したが、幼保連携型認定こども園は、82万1千人で、前年度より2万4千人増加し、過去最多となった。

小学校は、615万1千人で、前年度より7万2千人減少し、中学校は、320万5千人で、前年度より2万4千人それぞれ減少し、過去最少となった。高等学校は、295万7千人で、前年度より5万1千人減少した。

中等教育学校は、3万3千人で、前年度より6百人増加した。特別支援学校は、14万9千人で、前年度より2千3百人増加し、過去最多となった。専修学校は、63万6千人で、前年度より2万7千人減少。うち高等課程は、3万4千人で、前年度より4百人減少し、中学校で44・3%（前年度より0・3ポイント上昇）、高等学校で33・1%（前年度より0・2ポイント上昇）、特別支援学校で62・6%（前年度より0・3ポイント上昇）となり、それぞれ過去最高となった。

教員数では、教員全体に占める女性の割合は、中学校で44・3%（前年度より0・3ポイント上昇）、高等学校で33・1%（前年度より0・2ポイント上昇）、特別支援学校で62・6%（前年度より0・3ポイント上昇）となり、それぞれ過去最高となった。

教員全体に占める女性の割合は、中学校で44・3%（前年度より1万3千人増加し、過去最多となった。うち学部は、263万2千人で、前年度より6千7百人増加し、過去最多となった。

このうち大学院が26万2千人で、前年度より4千7百人が増加、専攻科9百人で前年度とほぼ横ばい、別科2千5百人で前年度より3百人増加、その他3万3千人で前年度より1千2百人増加した。

大学学部の女子学生は、120万1千人で前年度より4千5百人増加し、過去最多となった。また、学部学生に占める女子学生の割合は、前年度と同率の45・6%で過去最高を維持した。

短期大学学生数は、9万5千人で、前年度より7千5百人減少した。また、教員全体に占める女性の割合は、26・7%（前年度より0・3ポイント上昇）で過去最高となっている。

教員数をみると大学全体の女性の教員数は、前年度より7百人増加の5万1千人で過去最多になった。